

ごあいさつ



鹿児島市谷山支所長
濱平 浩己

皆様、こんにちは。鹿児島市谷山支所長の濱平です。

谷山地域の町内会並びに校区町内会長連絡協議会の皆様方には、日頃から市政の各方面にわたりご理解とご協力を賜っておりますとともに、地域におけるコミュニティ活動の担い手として、ご尽力いただいておりますことに深く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、春には、平川にピワを広めた国生岩右衛門先生を偲び子供たちや多くの地域の方々が参加した「平川びわ祭り」等、夏には、賑やかな催しや花火も打ち上がった夏祭り等、記録的な猛暑も一息ついた秋には、秋晴れのもと「第45回谷山ふるさと祭り」が盛大に開催され、各町内会や協議会からもたくさんの方々に踊り連に参加していただいたことで、まさしく「たにやまがゆれるほど踊りまくる」を実現することができました。また、「第367回錫山相撲大会」「校区文化祭」「校区運動会」「星空コンサート」等においても、各校区アイデアを詰め込み、ちょっとした仕掛けを加える等創意工夫されたイベントが展開されていきました。中でも「西谷山マルシェ」においては、動員の工夫として、運営協議会を、幅広くして再スタートし、関係団体が連携協力して運営にあたられたことで、大盛況のイベントとなりました。冬には、「ミニ門松づくり」において、他校区と連携して、材料調達と人的交流をマッチングさせる等特筆すべき活動もありました。また、4月から始まった「町内会デジタル活用促進事業補助金」を活用し、SNSを利用して、災害時の連絡、町内活動やフォトコンテストの発信等を行ったり、試験的に町内会費のオンライン集金等デジタル使用を積極的に実施する取り組みも広がり始めました。このように、昨年は皆様の工夫やデジタル活用により、地域活動が新たに進化し始めた一年ではなかったかと考えております。



今後も、人口減少時代を乗り越え、次の世代に豊かな鹿児島市を引き継ぐため、皆様との協働・共創や民間力の積極的な活用など、多様なつながりを深めながら、すべての方々が住みたい、訪れたいと感じる「選ばれるまち」をめざしてまいりますので、引き続きご尽力くださるようお願いいたします。

結びに、谷山地域の町内会並びに校区町内会長連絡協議会の益々のご発展と、皆様方のご健勝・ご多幸をお祈り申し上げます。

令和6年度 谷山地域校区町内会長連絡協議会研修報告

令和6年度の研修会を 下記の通り実施いたしました。

期 日 令和6年11月28日
場 所 鹿児島市谷山支所 4F会議室
出 会 者 谷山地域校区町内会長13名
谷山支所長 濱平浩己氏
総務課長 知覧真裕氏



研修テーマ 「聞くこと」から始まる地域自治

鹿児島大学法文学部准教授 酒井 佑輔

研修内容

近年「聞くこと」が注目されています。その理由の1つに、人びとの孤立・孤独化やつながりの希薄化が指摘されています。話をちゃんと聞いてもらえないと人間は孤独になるという研究結果もあるようです。また、現代社会における政治・社会的分断や二極化によって、対話や相互理解が困難な実態もあるのかもしれません。

「心理的安全性」という言葉の広がりもその要因の1つかもしれません。この言葉は自身の意見や本音を表現しても大丈夫、安全だと思える状態のことを指します。経営学やビジネス界隈を中心に議論されてきましたが、この確保にはまず相手の声に真摯に耳を傾けることが重要だとされています。つまり、人類の抱える課題が顕在化・深刻化するなかで、「聞く」という営為やその価値が問い直されているとも言えるでしょう。そこで本研修では、まず心理的安全性確保のため参加者同士の自己紹介とレクリエーションをおこないました。次に、私自身を含めた参加者でグループをつくり、それぞれの実践を丁寧に聞く時間をもうけました。すると、同じ協議会メンバーでも知らない事例がいくつか見えてきました。例えば若者が積極的に自治会活動に参加する地域では、町内会長が若者の声を聞き関係性を構築し、若者が参加しやすいよう会議時間の短縮や組織改革をすすめている実態が浮き彫りになりました。こうした事例に対して質問も多数寄せられ、参加者同士が自身の実践を省察する場にもなりました。

今回のような学びの場は、一方的に知識を詰め込むだけの銀行型教育(P・フレイレ)的になることが少なくありません。それが悪いとは言いません。しかしながら、心理的安全性を確保し、身近なひと(今回は研修にご参加いただいた皆さま)の声に耳を傾けようと、実はそこには私たちの想像を超える多くの宝が眠っています。こうした宝をいかに可視化しそこから学びあえるか、そのために、他者の声を聞きあう場をいかにつくっていただけるのかも、地域自治を考えるうえで重要だと思っています。